

Ⅲ その他

【自由意見】

今回の調査では、有効回答数5,277人のうち、1,150人の方から自由意見が寄せられました。

▶ みえ県民意識調査に関する御意見

今後でもできる限り多くの方に回答いただけるよう、御意見を踏まえ、調査方法の改善などについて努めてまいります。

なお、以下に具体的な御意見の例を記載します。

① 目的や活用に関すること

- ・ 今回のアンケートが県政に活かされる事を期待します。三重県は北勢、中勢、南勢と様々な特性と格差があると思います。同一にする事は難しいかと思いますが、県政により三重県が良くなるよう推進される事を期待します。
- ・ 「みえ県民意識調査」同封の活用状況の例を見ましたが、もっと具体的に知りたかったです。アンケートの結果と活用した内容を分かりやすく伝えてほしい。
- ・ 地味ながら確実に県政を行っていると思います。ただアンケートにも書きましたが、PR不足感があると思います。これはものすごくもったいないことだと思います。

② 調査票の内容や構成に関すること

- ・ もう少し各分野に分けて細かくアンケートを取っても良いと思う。例えば、暮らしのこと、健康のこと、医療のこと、教育のこと、行政のこと、幸福のとらえ方など、各項目で記入した人の考え方や目線がわかる質問があっても良い。対象人数を増やしても良いと思う。
- ・ あまり意識したことのない質問が多くて、自分が幸せなんだなと思いました。
- ・ 問いに対して、選べる項目があっていない問いも、あると思われます。
- ・ 子供に関する問いはあったが、高齢者に対しての問いがなく県は高齢者をどのように考えているのか不信感を覚えます。国もそうですが、子供たちと同様に高齢者の生活環境にも重きを置くことが大切ではないでしょうか？住みよい県にするため是非とも考えて頂きたいものです。

③ その他（実施方法、公表など）に関すること

- ・ ウェブ回答が可能だったので、とても楽だった。手書きでの回答→郵送だと、ハードルが高かった。
- ・ やはり今の時代では、インターネットを通じて情報を発信して頂くのが一番わかりやすいと思います。このアンケートでもそう思いました。将来ある若い人に調査していただくことを望みます。
- ・ 簡単なアンケートで記入しやすかった。インターネットによる回答ができるので便利でした。
- ・ 幅広く県民の声が届くようにアンケートの回数・対象人数を増やしてほしい。

(参考) 標本誤差と調査の精度

母集団の一部を標本として抽出し、その回答からもとの母集団全体について推定する標本調査では、“真の値”（全数調査を行えば把握できるであろう値）との差が発生することが避けられません。この“標本誤差”は、次のような手順で見積もることができます。

まず、今回のように大きな母集団から標本を無作為抽出する調査では、ある選択肢が選ばれた比率（回答比率） p の“標準誤差”（回答比率の標準偏差）が次のように求められます。

$$\text{標準誤差} = \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}} \quad n : \text{回答者数 (人)} \quad p : \text{回答比率 (\%)}$$

標本誤差はこの標準誤差と、結果に求める“信頼度”から見積もります。例えば、信頼度を、最も広く使われる95%（間違える確率が5%）とすると、標本誤差は次の式のように求めることになります。

$$\text{標本誤差} = 2 \times \text{標準誤差}$$

ここで、右辺第1項の2（厳密には1.96）は、想定する信頼度によって統計学的に決まる値です。回答比率プラスマイナス標本誤差の範囲が信頼区間と呼ばれるもので、信頼度95%の場合、真の値（母集団における比率）が95%の確率で、次の範囲におさまると考えることができます。これが、標本調査の精度です。

$$\text{回答比率} - \text{標本誤差} \sim \text{回答比率} + \text{標本誤差}$$

今回の調査では、10,000人の標本から5,277人の有効回答が得られました。回答者全員を対象とする集計結果の標本誤差を、上の式から具体的に計算すると、例えば回答比率が50%の場合は、1.3%、同20%では1.1%となります。このことから、三重県民（18歳以上）全体の意識を推定するために十分な精度を得ていると考えられます。

次表は、いくつかの n （回答者数）と p （回答比率）の組み合わせについて、信頼度95%の標本誤差を計算した早見表です。

標本誤差の早見表

回答者数(n) \ 回答比率(p)	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
	(95%)	(90%)	(85%)	(80%)	(75%)	(70%)	(65%)	(60%)	(55%)	
10,000	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
5,000	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
1,000	1.4	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
500	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
100	4.4	6.0	7.1	8.0	8.7	9.2	9.5	9.8	9.9	10.0

なお、標本誤差の計算は、特定の属性区分（例えば性別が女性など）の回答者 n 人とその比率 p という組み合わせについても同様です。上の表は、そのような標本誤差の早見表としてもご覧ください。